

= 高品質な“ぎふ”の米 =

米づくりのスタートは種籾から

◆◆◆ 「薬剤吹き付け種子」を活用しよう ◆◆◆

☆ 「薬剤吹き付け種子」とは ☆

・岐阜県では [ヘルシードTフロアブル 7.5倍] の薬剤が種子量の3%吹き付けてあ
 (飛驒を除く) [スミチオン乳剤 100倍] ります。

(注)；この種子は危険防止のため着色剤(ウォーターブルー)で着色されています。なお、浸種後の液に種子を浸けても消毒効果はありません。

◎ 浸種(消毒と催芽)を上手にするには ◎

・消毒の効果は浸種中に進みます。

種子(kg)	水(ℓ)
4	16
10	40

- 種子と水の容量比は1：2とする。(重量比では1：4相当)
- 籾袋の中味はゆったりと入れる(4kg網袋はそのまま使えます)。
- 浸種の始めに水中で籾袋をゆする、上げ下げし、袋の中心部まで水が行きわたるようにする。
- 浸種の積算温度は100℃～120℃(水温15℃で7～8日)程度とし、停滞水で行う。
- 水の汚れ、異臭が発生したときは静かに水を入れ替える。
- 催芽は「はと胸」程度(幼芽1mm位)になるように。(裏面の図)

★ 薬剤吹き付け種子の取扱注意事項 ★

- 「空き袋」及び「保証票」は収穫期まで保管して下さい。
- 河川・ため池等では浸種しないで下さい。
- 薬剤吹き付け種子には直接手をふれないで下さい。
- マスク・ビニール手袋をして作業して下さい。
- 浸種廃液は側溝・水路・河川等へ流さないこと。必ず適正に処理して下さい。

★ 種子が残ったら ★

- 残った種子は、飯米や家畜の飼料には使用しないで下さい。
- 残った種子は、必ず適正に処理して下さい。

〈詳細については、JA又は農林事務所にお尋ね下さい〉

良い種子
良い苗
ゆたかな稔り

薬剤吹き付け種子で一等米を作ろう

揃いの良い苗を作るには 十分に吸水、確実に催芽させてから播種しましょう!!

種子消毒の方法

(薬剤処理の場合)

薬剤吹き付け種子

無消毒種子

良好な催芽

幼芽 1 mm位

良質米づくりは、
「良い苗」づくりから。
健苗づくりは、
『薬剤吹き付け種子』で。

混ぜない

種子消毒 (24時間薬液浸漬)

- ・浸漬薬液はスミチオン乳剤 (1000倍) とヘルシードTフロアブル (200倍) を混合する。
- ・水温10~20℃ (低温は避ける)

※使用量早見表 (容量比で種子1:薬液1以上)

種もみ量 (kg)	薬液を作るに必要な水量 (ℓ)	スミチオン乳剤量 (ml)	ヘルシードTフロアブル量 (ml)
4	8	8	40
10	20	20	100

- ・水で洗わないこと。

ポイント I

- ・浸種することで種子消毒ができる。
- ・容量比で種子1:水2の割合で浸種。(浸種液は種もみ重量の4倍量相当)
- ・始めに水中でゆすり、その後は停滞水で攪拌しない。

浸種・種子消毒

浸種

ポイント I

- ・容量比で種子1:水2の割合で浸種。(浸種液は種もみ重量の4倍量相当)

水の汚れ、
異臭を発した時は
静かに水を交換
(発芽不良を回避)

共通ポイント II

- ・積算水温で100℃~120℃
(15℃で7~8日)

共通ポイント III

- ・催芽は、「はと胸」状態の確認。
(幼芽 1 mm位が適当)

催芽

は種